

魅力ある府立高校づくり懇話会 第1回～第5回における主な意見（要旨）

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
<p>■ 多様な生徒のニーズに対応する各課程における役割や望ましい教育環境</p> <p>・ 多様なニーズの現状と課題</p> <p>・ 必要な教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制・通信制は勤労学生が学ぶ場から、不登校などの背景のある生徒が多く学ぶ場へと変化しており、その実態を踏まえた検討が必要である。 ・ フレックス学園構想による清明・清新高校は、通級による指導も含めた丁寧な指導によって、不登校経験のある生徒が順調に高校生活を送っているなど、非常に有効に機能している。 ・ 通信制はスクーリングも少なく、自由度が高くて入学はしやすいが、生徒自身が計画を立てて学ぶ必要があり、その力不足で途中で辞めてしまう生徒もいる。公立の通信制の在り方は検討すべきである。 ・ 中学校で通級による指導を受けていた生徒が通信制を選ぶことが増えてきている。 ・ 不登校経験のある生徒や特別な支援が必要な生徒、コミュニケーションに課題がある生徒、経済的な困難がある生徒たちが、安心して学び、社会的自立に向けた力を養える教育システムが必要である。 ・ 多様な家庭環境や中学時代の状況があっても、全ての生徒が不公平のない教育機会を得られる環境を提供すること、高校入学直後から生徒が自身の進路と将来を主体的に考えて、高校卒業後のステップを選択する風土を醸成することが求められる。 ・ 社会経験や生活体験が乏しい生徒にとっては、学校での教育活動における様々な体験が重要である。学びへの意欲が低い生徒には、対面で寄り添い、学ぶきっかけを作ることが必要である。 ・ 基礎的な学力が十分に定着していない生徒が安心して学べる場が必要である。また一方で、ギフテッドのような特別な能力のある生徒を伸ばすといった視点も必要ではないか。 ・ 特別な支援を必要とする生徒については、特別支援学校高等部も含めて、それぞれの実態に応じた適切な学びの場が選択できることが望ましい。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の視点は重要であり、教員研修等の取組も必要である。 ・全日制・定時制・通信制の全課程において、フレックス学園構想の考え方を基本としてもらいたい。 ・多様な生徒のニーズに対応する学習集団の在り方としては、フレックス学園構想を他地域にも展開していくことが重要である。 ・課程の別を問わず、連携・併修などによって、生徒たちが学び続けることができる柔軟なシステムやサポートが重要である。 ・全日制・定時制・通信制の併修や、通信制課程であっても、通信教育で学ぶだけでなく、通学を組み合わせることも考えられる。 ・教科学習以外の様々な教育活動等によって、生徒自身が将来を考えるキャリア教育を充実させ、学年等の枠にとらわれない自由な履修課程の提供が求められる。 ・全ての府立高校が共通で履修ができる動画（例えば大学進学、中学校復習、キャリア学習、高卒認定単位取得コースなど）を配信することや、保護者も含めてキャリアカウンセリングが受けられる取組なども考えられる。課程や地域を問わず、全ての府立高校がICTでつながることで、1つの学習集団であるという私立高校にないようなスケールメリットを創り出せる。 ・不登校生徒にとっては、学校・クラスといった基礎集団による居場所が1つしかないことは厳しいことである。オンライン上など、学校内外での居場所を複数化していくことが必要である。 ・全日制課程では多層的なレベルでの学び直しから難関大学受験までの様々な学習環境が求められる。 ・夜間定時制は在籍生徒数が減少し、集団の教育活動や部活動がほとんど成立しない状況になっており、清明・清新高校のような一定規模による学校でニーズに応じていくことが必要である。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
<p>■ 全日制課程における学科の役割や望ましい配置の在り方（普通科・普通科系専門学科）</p> <p>・ 学科の現状課題と役割</p> <p>・ 地域性を踏まえた役割と配置</p> <p>・ 普通科の魅力化、見える化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧倒的に多くの子どもが普通科に入学しており、普通科に特色がないと、自宅からの近さや部活動等によって選択する側面が出てくるので、普通科の特色化は進めていくべきである。 ・ 普通科には、学校ごとに様々な名称のコースがある。また、普通科系専門学科も混在し、中学生や中学校教員にとって分かりづらいため、高校側は教育内容を明確に見せていくことが必要である。 ・ 普通科においては、一般教育の役割として、全人的な教養、人間的な成長や生き方の幅など、共通のコアをしっかりと保障していくべきであり、その核心部分は地域性に関係なく重要である。 ・ 現状の定時制・通信制のように生徒に丁寧に取り扱った対応が、普通科にも求められる。 ・ 普通科系専門学科では、探究学習に対する意欲や目的意識を明確に持って入学を希望する生徒が多い。国のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けることなどで、併設の普通科とともに特色的な探究学習を進めることができる。 ・ 中学生は、高校選択において高校卒業後の進路実績を重要視している。特に、多様な学校選択や通学が可能な地域では、子どもたちの学力面との相関関係もある。 ・ 地域との連携は大事な要素である。普通科において、地域の特色と連携した学習や、地域の担い手育成としての職業教育、探究的な学び等ができるようにすることも考えられる。 ・ 北部地域では学校数が少ないため、1つの学校において普通科の中に複数の特色を持たせ、複数の役割を担って、様々なニーズに応えていくことが重要である。 ・ 南部地域では選択できる学校数が多いので、それぞれの学校ごとに特色化を進めることが重要である。 ・ 中学生段階では、高校で何を学ばよいか、将来どうしたいのかを決められないまま高校へ進学する生徒が多いので、普通科の中での特色を、細分化しすぎず、大き目にカテゴリー分けする方が望ましい。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・コースについては、高校卒業後の進学先での学びや大学卒業後の仕事へのレディネスに繋がる具体的な教育内容を、明確にする必要がある。真の特色化には、キャリア教育を軸とした視点が必要である。 ・変化の激しい現代社会において「主体的に生きるための総合力」を身につける場にする必要がある。これからの普通科では、大学ではできない自由な学びの体験ができ、生徒が自分の人生に関わる初めての選択をするための3年間であるという考え方が大切である。 ・地域での教育の核としての役割を高校が果たしていく中で、普通科の特色が生まれることもある。地域の小・中学校での学びを深めるような在り方も考えられる。 ・普通科を魅力化していく視点として、進学指導、国際教育、ICT教育、キャリア教育などの要素が考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 全日制課程における学科の役割や望ましい配置の在り方（職業学科・総合学科） ・ 学科の現状課題と役割 ・ 求められる役割と学びの特長 ・ 地域社会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生段階では将来が描ききれず、大学まで進んでから自分の適性を探したいという意識を持つ生徒が多いので、高校選択時に職業学科を選択することは難しい面もある。 ・ 中学生や保護者、中学校教員には、職業学科や総合学科の教育内容や進学・就職先に関する魅力が十分に伝わっていないため、高校側からの発信が重要である。 ・ 総合学科では、様々なニーズを細分化し、自由なカリキュラムや少人数講座にできることなどがメリットであるが、教員体制の整備など、学校運営の難しさがある。 ・ 大学生の様子を見ていると、専門学科出身の生徒がよく伸びている。吸収力の高さや、現場感のようなものを大切にできる感性を持っている。 ・ 高校段階の職業教育、キャリア教育に求められる役割は、生徒がトライアンドエラーを経験して生徒が自分の適性を具体的に見つけられるようにしていくことである。また、トライアンドエラーの結果により、次のステージを柔軟に選択できるようにすることも重要である。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校段階で本格的に将来の選択をする生徒たちを、しっかりと伸ばして社会に繋げていくことが重要である。課題研究などにおいて、1つのものを突き詰めることや、社会に目を開かせ、社会としっかり切り結ぶ経験を積ませることが重要である。 ・職業訓練的な学びではなく、大学や産業界の研究とも連携した価値を創造する学びの視点で、実社会を見据えたコンピテンシーを育てていくことが必要である。 ・職業学科には、普通科と同様に大学進学も保障しつつ、専門的な「実力」を身につけられるカリキュラムが求められる。高校段階での起業など社会との繋がりを持つような並行キャリアの可能性もある。 ・PBL、探究学習、STEAM教育やDXなど、社会との繋がりを追求する視点では最先端に行くのが職業学科である。 ・特に農業は今後の成長産業であり、バイオやデータと繋がれば、非常に大きな可能性がある分野である。大学でも実学的な農業への人気が高まっている。ICTを掛け合わせたスマート農業への展望もある。 ・職業学科の特色として、寮の存在は魅力の1つであり、寮生活を通じて身につけられる社会性など、教育的な意義もある。 ・職業学科については、量的に多く設置することよりも、センター機能的役割を持つ各職業学科の高校が、高いレベルの教育内容や実践を発信し、学校間で連携することなども考えられる。 ・地域産業との連携の中で、将来の仕事も見据えたキャリア教育を行うことで、生徒自身がキャリアデザインを進め、卒業後の具体的な進学や就職に繋げていくことが重要である。 ・職業学科の高校が、地域社会の最先端を担う、未来を感じさせる場として、地域や保護者を巻き込んでいくことが重要である。 ・北部地域では以前から、職業学科で専門性を高めた生徒が即戦力として地元企業に就職するなど、地域社会において重要な役割を果たしてきている。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・職業学科等では、教員を支える仕組みも重要である。社会状況の変化により社会的資源とのネットワークやマッチングが必要になるため、教育コーディネーターのような存在が非常に重要である。
<p>■ 地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって魅力と活力ある教育環境（教育の質の確保） ・各地域における府立高校が果たすべき役割と適正な配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校は自立した社会人に向けた最終段階で、学校行事等に協働して取り組む最後の場となるので、心の成長において非常に重要な時期である。 ・これからの社会に必要な人材像、能力は明らかに従来と違っており、答えがあるものにしか対応できないような偏差値型の教育を引きずり過ぎると、創造性や将来を生きていくために本当に必要な力が身につかない。これからの社会に求められる資質や能力に照準を合わせる必要がある。 ・子どもたちは、高校には中学校よりも、学習内容の専門性や専門的な施設設備等の教育環境、学校規模といった要素でのグレードアップを求めており、大きな集団での大規模な学校行事や部活動などで切磋琢磨できることが重要である。 ・同じ方に向けて学びを進めている者同士が集って、刺激を受け合うところに、高等学校の存在意義がある。 ・小規模校では、手厚く指導できる部分もあるが、クラス替えがないなど、生徒同士が人間関係で支障をきたしたときに逃げ場がないという側面もある。一定数の集団がある方が、多様な意見や発想を共有しながら学ぶことができる。 ・高校が果たすべき役割として、生徒たちをどのように実社会と接続させるか、人間性や社会性、キャリアデザインをどう身につけさせるかといった観点が重要である。高校教育としての質を確保するためにも、一定の集団規模が必要である。 ・教員数は学校規模に応じて決まるため、小規模化によって教員数が減ると、専門外の分野を教えることもあり得るので、教育の質や多様な進路保障に支障が生じることにもなる。 ・適正な規模の在り方は、学習面、社会的な活動、ケアの部分など、学校としての機能や役割ごとに分けて考えることも重要である。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な縮小という観点で、学び手や地域を中心に府立高校の在り方を考えていくことが必要である。 ・子どもたちのニーズと地域性に合った高校づくりという視点で、再編や存続の必要性を検討していくべきである。 ・府立高校だけでなく、市立高校や私立高校も含めた設置者全体で、生徒減少等の課題を考えていくべきである。府内の高校全体で検討することで、子どもたちの将来に繋げていくことが重要である。 ・通学時間は子どもたちにとって大きな要素である。通える範囲の中に、子どもたちのニーズに合った選択肢があることが必要である。 ・高校の存在意義や役割などは、地域政策などとも繋げて検討していくことが重要である。 ・望ましい規模は、それぞれの地域特性を考えながら議論していく必要がある。生徒数の減少スピードなど、地域ごとのタイミングを見極め、優先順位をつけて検討することも必要である。 ・地域事情は様々に異なるため、地域ごとの検討を開始する時期などは、一定決めておくべきではないか。 ・南部地域では、それぞれの高校が専門的な要素を特化していくことも考えられる。北部地域では、地域課題に応えることや多様性を担保するような学校づくりが重要である。 ・南部地域では、一定の規模をしっかりと確保していくことが重要である。現在4クラス規模の学校もあるが、本来は6クラスから8クラス程度が望ましい規模と考えられる。 ・北部地域では、交通利便性の課題や学校間が離れているなどの事情がある。多様な学びができる程度の学校規模がないと、子どもたちが求める学びが保障できないことになる。小規模な学校が点在しているのでは、教育効果も上がらない。 ・北部地域では、人口減少をチャンスに変える発想で府立高校の再編をしていくことも必要ではないか。小規模校でも、多様性を認め合いながら創造的に現代社会に必要な力を涵養していけるようなモデルを創り出していくことが重要である。

論点・視点	主な意見や提言等の要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リソースを高校教育に活用しやすいというメリットが北部地域にはある。教育政策として、地域の活性化に繋げて学びながら、最終的には生徒ファーストの視点で生徒の自立に繋げていくことが重要である。高校生たちが旅をしながら様々な経験をしていくことで、地域が活性化していくような構想が望ましい。 ・少子化が顕著な北部地域では、府内留学を検討してはどうか。農業や水産業等は、絶対に衰退させてはいけない産業分野であり、重要な学びの要素も多くある。生徒間交流による教育的な効果も期待できるので、寮の整備なども含めながら検討できないか。
<p>■ その他、魅力ある府立高校づくりの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色化においては、生徒たちが本当に行きたいと純粋に思える高校づくり、魅力化を進めることが重要である。 ・学校の魅力化を部活動や学校行事のみで高めるには限界があり、教科や総合的な探究の時間等における学びの意味を見直し、活気のある学校にしていくことが必要である。 ・大学や企業等、地域の社会資源との連携の中で実社会の経験を積むなど、アカデミックなレディネス、キャリアのレディネスに繋がる学びや活動を展開すべきである。 ・市や町が、地域コーディネーターを市町内の府立高校に配置している例がある。地域の資源を活用して、高校生の意識の変化や気づきを促し、高校と地域社会の架け橋としての役割を担っている。こうした取組は非常に有効である。 ・中学生段階からニーズに応えるために、中高一貫教育校を充実させることも考えられる。魅力ある高校に中学段階から入学したいというニーズはある。 ・府内には大学が多く存在するため、中高一貫教育の視点も含めて、中・高・大までの接続による学びのデザインも考えられる。 ・現在の入学者選抜制度は、何度もチャンスはあるが、一方で中学生や保護者にとっては分かりにくい制度でもある。